

令和2年第2回定例
夕張市議会会議録
令和2年6月10日(水曜日)
午前10時30分開議

◎議事日程

第1 一般質問

◎出席議員(8名)

君島孝夫君
小林尚文君
大山修二君
本田靖人君
千葉勝君
熊谷桂子君
高間澄子君
今川和哉君

◎欠席議員(0名)

午前10時30分開議

●議長 小林尚文君 これより、令和2年第2回定例市議会第2日目の会議を開きます。

●議長 小林尚文君 本日の出席議員は8名全員であります。

●議長 小林尚文君 本日の会議録署名議員は、会議規則第125条の規定により

本田議員

千葉議員

を指名いたします。

●議長 小林尚文君 この際、事務局長から諸般の報告をいたします。

●事務局長 佐藤浩一君 報告いたします。

本定例市議会に出席を求めた説明員につきましては、密集・密接を避けるため、必要最小限としてお

ります。

説明員の一覧につきましては、お手元に配付のプリントのとおりであります。

以上で、報告を終わります。

「別紙」

市長 厚谷司君
教育長 小林広明君

◎市長の委嘱を受けて出席した者の職・氏名

理事 大友秀樹君
総務課長 芝木誠二君
地域振興課長 福富貴大君
財政課長 押野見正浩君
保健福祉課長 平塚浩一君

◎教育委員会教育長の委嘱を受けて出席した者の職・氏名

教育課長 寺江和俊君

◎監査委員の委嘱を受けて出席した者の職・氏名

事務局長 三浦護君

◎本議会の書記の職・氏名

事務局長 佐藤浩一君
書記 山下倫弘君

●議長 小林尚文君 本日の日程は、お手元に配付しているプリントのとおりであります。

それでは、直ちに日程に従って会議を進行いたします。

●議長 小林尚文君 日程第1、これより昨日に引き続き、一般質問を行います。

本日の質問者は、君島議員、千葉議員、熊谷議員であります。

それでは、君島議員の質問を許します。

君島議員。

●君島孝夫君(登壇) 君島孝夫です。

通告に従い、一般質問を行います。

件名は、新型コロナウイルス感染症に対する本市の経済支援策について。

まず初めに、新型コロナウイルスに感染されお亡くなりになられた方々に対しまして、お悔やみを申し上げます。また、感染され治療されておられる方々、一日でも早く回復されることをお祈り申し上げます。そして、医療現場で感染予防に従事されておられる方、職員の方々に対して、感謝を申し上げます。今回の国の特別定額給付金の支給に当たり、通常業務を行いながら支給業務に対応してくださいました市の職員のみなさまには、心よりお礼を申し上げます。

さて、市長は、4月24日の北海道新聞に掲載された記事によると、新型コロナウイルス感染拡大を受け、道による休業要請に協力する事業者に支給する支給金に上乗せなどの事業者支援に取り組むことを検討しているとして、先日の23日、市役所に市内商工関係者団体を集め、意見交換会を開催したとあります。

出席者によると、飲食店では、お客さんが来なくて売上げが大幅に減っている。市としても、何らかの金銭支援をしていただけないのか。その意見に対し、市長は、しっかりと考えていきたいが、財政再生団体の当市では、自由裁量の財源に、ふるさと納税の給付金などに限られる。そのため、札幌市などのように、事業者数十万円単位の支援を出すのは難しい。仮に金銭支援をするにしても、ほんの見舞金の額にならざるを得ない。金銭支援ではない別の形があるかを含め、検討したいとの記事を拝読いたしました。

しかし、6月2日の行政常任委員会では、新型コロナウイルス感染拡大の影響で売上げが減少している市内の飲食店への経済支援として、市独自に最大30万円を支給したいと報告がありました。内容は、市内35の飲食店に一律10万円を支給。更に、持ち帰りや出前を行う店に対しては、容器代などとして10万円を支給。これに加え、飲食店に限らず一般の小売店舗なども含め、2月以降の売上げが前年比20%以上減少している事業者に対して、10万円を支給するとの報告がありました。

私は、財政再生団体にあっても、何らかの経済支

援があるものと少しは期待をしておりましたが、今回の支援策は大いに評価される内容であると思っております。決断された市長に敬意を表したいと思っております。

そこで、市長にお伺いします。再生団体である夕張市において、市長の考えている市内各事業者に対する更なる経済支援策について、お考えがありましたら、お伺いをしたいと思います。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君（登壇） 君島議員の新型コロナウイルス感染症に対する本市の経済支援に関するご質問について、お答えをいたします。

市内事業者への経済支援策につきましては、今般、地域経済の下支えを目的とした事業者向け給付金等の緊急的な支援策を早急に講ずることを決断し、財政再生計画の変更において、所要の経費を計上したところでございます。

新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、今後、その影響が長期化する可能性もありますことから、引き続き、商工会議所をはじめとした関係者からの情報収集に努めるとともに、更なる支援策の必要性について検討して参ります。

以上でございます。

●議長 小林尚文君 再質問ありませんか。

君島議員。

●君島孝夫君 今、市長がおっしゃられました施策の中で、具体的なものというのは、まだ何も考えておりませんか。具体的な支援策としては。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君 君島議員の再質問にお答えいたします。

現在、取組を進めている部分につきましては、先ほど、答弁申し上げましたとおり、財政再生計画の変更を昨日議決をいただいた内容でございますけれども、今後の具体的な内容につきましては、金銭的なもの、あるいは、地域振興その他で考えるものということで、いろいろと手法が考えられるものもあるというふうに思います。

その意味では、市としても情報収集をした上で、商工会議所、あるいは関係者のみなさま方から、これから意見をお伺いする中で、具体的に検討して参りたいということでございますので、現段階では、具体的なものについて、お示しできる状況にはございません。

以上でございます。

●議長 小林尚文君 再質問ありませんか。

君島議員。

●君島孝夫君 分かりました。ありがとうございます。

私のほうで、夕張市として、独自の経済支援として、苦しい経営の続く飲食店や商店などへの支援策として、新たに夕張市内に在住、または通勤・通学をする人たちを対象にプレミアム商品券を発行してはどうかと考えております。地域消費拡大を図っていくためには必要なことかと思っておりますが、市長はいかがお考えでしょうか。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君 君島議員の再質問にお答えをいたします。

新型コロナウイルス感染症に係る経済支援策としてのプレミアム付商品券事業、これについて、行っている自治体があることにつきましては、新聞報道、それから、他自治体への聞き取り等により承知をしているところでございます。先ほども申し上げましたとおり、引き続き、市といたしましては、商工会議所をはじめとした関係者からの情報収集に努めるとともに、更なる支援策の必要性について検討して参りますが、その際にはプレミアム付商品券事業を含め、どのような支援ができるか等について、制度的な面、それから財政的な面など踏まえながら考えて参ります。

以上でございます。

●議長 小林尚文君 再質問ありませんか。

君島議員。

●君島孝夫君 ありがとうございます。

再質問ではないのですが、ぜひともその辺も考慮

に入れて、いろいろと前向きに検討していただきたいと思っております。

以上をもちまして、私の一般質問は終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

●議長 小林尚文君 以上で、君島議員の質問を終わります。

次に、千葉議員の質問を許します。

千葉議員。

●千葉 勝君（登壇） 千葉勝です。

このたびの新型コロナウイルスにより、お亡くなりになりました方々に心からお悔やみ申し上げますとともに、影響を受けられましたみなさまにお見舞い申し上げます。また、命を守るために最前線で奮闘されております医療従事者のみなさまに、心から敬意と感謝を申し上げます。

通告に従いまして、一般質問をいたします。

夕張市内の小・中学校の臨時休業は、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、道教委の要請により、2月27日から3月4日までの7日間を臨時休業といたしました。その後、知事による緊急事態宣言、また、総理大臣から全国全ての学校において、3月2日以降、春休みまでの臨時休校要請、再度、知事からの要請等の経過を経て、5月25日に国の緊急事態宣言の解除が出され、6月1日から夕張市内の小・中学校も再開されました。春休みまで休業になったため、卒業式は、該当児童・生徒と保護者、そして教職員のみで行われ、この休業期間中において、児童・生徒の健康状況や学習状況の把握のため、数日間の臨時登校日が設けられ、分散登校が実施されたと認識しております。

全国一斉の学校休業要請から3カ月がたち、学校休業日も40日以上にわたり、授業時数にすると、100時間を超えているのではないかと考えます。学校が再開され、市内小・中学校では、授業時数の確保に努めることは当然ですが、これからは、感染症対策を講じながら子どもたちの学びを保障することを目指し、学校行事等を含めた学校教育ならではの学びを大事にしながら教育活動を進めていただきたいと

考えております。

そこで、小・中学校における新型コロナウイルス感染症への対策について、教育委員会にお伺いいたします。

1点目ですが、6月1日から学校が再開され、各学校においては、新型コロナウイルスの感染を拡大させないために、対策を講じていると思います。新しい生活様式では、人との間隔はできるだけ2メートル、最低でも1メートル開けることとなっております。学校は、3密、全ての条件がそろう場所でもあると、私は考えます。

そこで、学校内での3密、密閉、密集、密接対策をどのように行っているのかお伺いいたします。

●議長 小林尚文君 教育長。

●教育長 小林広明君（登壇） ただいま千葉議員から、これまでの臨時休業等の経緯も含めて、ご指摘いただきましたが、まさに6月1日から学校が再開し、子どもたちは学習に励んでいるところであります。

そこで、ただいま千葉議員からのご質問にありました、小・中学校内での児童・生徒に対する新型コロナウイルス感染症対策についてであります。3密対策につきまして、お答えします。

まず、学校内において、3密対策をどのように実施しているかということですが、これにつきましては、文部科学省が提示しております「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生マニュアル～『学校の新しい生活様式』～」という通知に沿った対応策が基本となります。

そこで、まず密閉対策に言えば、その日の気象などには影響されるものの、教室等の小まめな換気を可能な限り行うこと。

次に、密集対策では、先ほど千葉議員も申しましたが、最低1メートル、人との間隔を空けて活動を行うとされており、教室内も可能な限り、そのような間隔で、机、椅子等の配置をしておりますが、特に給食などにおいては、学級を2つに分けて、2カ所に分けて摂取するなどの対策を講じております。

それから、3つ目の密接対策につきましては、体育の授業では、熱中症などの健康被害が発生する可能性が高い場合を除き、基本的には常時マスクを着用とすることとしており、このような対策の下、日々、学校生活を送らせているというところであります。

●議長 小林尚文君 再質問はありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 はい、ありがとうございます。

授業時間はマスクを着用し、間隔を1メートル以内を目安に学級内で座席を配置し、小まめに換気を十分行なって、学習をしているというような答弁だったと思っております。

それでは、文科省が感染拡大の高い一部の学習であります、例えば、音楽での歌唱指導、家庭科での調理実習、体育での児童が密集する運動や、近距離で組み合ったり接触する運動については、なるべく実施を控えるようにという通知が出されていると、私は認識しております。

そこで、これらの学習について、夕張市内では、どのように指導していくのか、お伺いしたいと思います。

●議長 小林尚文君 教育長。

●教育長 小林広明君 ただいまの千葉議員のご質問にお答えします。

基本的には、先ほどお答えした3密対策をしっかりと講じた上で授業は行いますが、それでもなお感染のリスクが高い、今、千葉議員が申し上げました各活動につきましては、まず、1年間を通した指導を計画しておりますので、今後の感染の状況にもよりますが、年間における指導順序の変更を、例えば、今はまだ行わず、年度の後半になってから実施を考えたり、更に家庭における学習との組合せや、また、可能な限り授業を野外で実施したり、児童・生徒が集合とか、整列する場面を避けたりですとか、さらには用具の消毒、授業前後の手洗いの徹底など、こういった感染拡大防止のための防護措置を徹底してまいりよう、小・中学校には指導しております。

以上です。

●議長 小林尚文君 再質問ありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 今後とも、学校内での3密対策をよろしくお願い申し上げます。

次に、2点目ですけれども、昨年度の市議会と小学校6年生との意見交換会において、本町線の登校時の路線バスでは座れない状況であると、子どもたちから意見が出されていました。この状況を考えますと、バスの中では、密閉空間で多くの人が密集し、近距離での会話や、発生の3密の状況ではないかと、私は考えます。

そこで、学校再開後のバス通学の児童・生徒の新型コロナウイルス感染拡大防止対策は、どのように行っているのか、お伺いいたします。

●議長 小林尚文君 教育長。

●教育長 小林広明君 ただいま千葉議員からの、バス通学における感染拡大防止対策における質問について、お答えします。

朝、登校時における通学バスの乗車状況に鑑みて、バス内の3密状態を回避させるため、本町線のバスですが、1台の増便を6月1日の再開以降、実施しているところであります。また、新夕張線及び登川線、滝ノ上線、これにつきましては、路線バスとスクールバス2台で運行しておりますが、この間で乗車人数の調整を行い、バス内の混み具合を可能な限り解消いたします。当分の間、これらのバスには添乗員も乗車させ、バス内における児童・生徒の指導も実施しているところであります。

以上です。

●議長 小林尚文君 再質問ありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 ありがとうございます。

それで、スクールバスの1台増便とか、路線バスからスクールバスへの乗車変更等を行っていますけれども、3密対策をしているという答弁でした。この対策でも、利用者の座席の間隔を離したりすることは、なかなか難しいと、私は考えますけれども、これらに対して、バス利用をしている児童・生徒に特

別なご指導等をしているのかどうかについて、お伺いいたします。

●議長 小林尚文君 教育長。

●教育長 小林広明君 ただいまの再質問にお答えします。

千葉議員が申しましたとおり、バス内という限られた空間ですので、そういったような危険性もあるというところから、先ほど、答弁の中で申しましたとおり、指導のための添乗員を当面の間乗車し、バス内における児童・生徒の指導も実施しているほか、バス内における感染防止対策ということで、学校におきましても、当然、学級指導等の中で、先ほど申しました、基本的な3密を避けるという感染症防止対策。更には、バス内においては、先ほど、千葉議員も申し上げておりましたけれども、可能な限りおしゃべりはしないですとか、隣の人に寄りかからないですとか、そういったマナー等も学級指導で徹底しているところであり、今後も、当然、継続して指導を行って参りたいと考えております。

以上です。

●議長 小林尚文君 再質問ありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 この件についても、今後ともよろしくお願い申し上げます。

次に、3点目に入ります。

新型コロナウイルス感染症の防止対策のため、市内小・中学校が臨休となり、子どもたちが家庭で過ごすことが多くなりまして、ゲームをする時間が長くなったり、学校が再開されてから勉強についていけないなど、様々な悩みやストレスを抱えて困っている子どもたちもいるのではないかと考えます。

そこで、学校再開後の児童・生徒の心のケアなど、健康管理をどのように行っているのかお伺いいたします。

●議長 小林尚文君 教育長。

●教育長 小林広明君 ただいまの児童・生徒の心のケアなどの健康管理についてのご質問にお答えします。

これにつきましては、北海道教育委員会通知の「学校再開後の児童・生徒の心のケアについて」という通知に従い、まず、学級担任や養護教諭等による児童・生徒を対象とした健康相談や教育相談、これらを行うなど、一人ひとりの心身の状況を把握するとともに、必要に応じて、スクールカウンセラーなど、関係機関と連携し、適切に支援することとしております。

次に、特別な支援を要する児童・生徒や、入学間もない小学校新1年生の児童などについては、学校全体で、担任や養護教諭だけではなくて、全体できめ細やかに様子を把握し、それらを共有するなどして、支援を実施すること。そして、さらに感染症に関する適切な知識の下、学年に応じた指導を行って、感染者や、そのご家族、濃厚接触者、感染症対策や治療に当たる医療従事者の方々、社会機能の維持に当たる方々やその家族などに対する差別や偏見は断じて許されないと。こういったようなことを指導すること。ということなどを基本にしながら、子どもたちの心のケアに努めて参りたいと、実践をして参りたいと考えております。

以上です。

●議長 小林尚文君 再質問ありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 ありがとうございます。

先日、文科省から新型コロナウイルス感染症への対応として、児童・生徒等に発熱等の風邪の症状が見られたときには、出席停止する措置をとるとの通知が出されたと思います。と私は認識しております。

そこで、学校での児童・生徒の健康管理は、朝、家庭での検温や健康観察などで、児童・生徒の健康状況を観察していると考えております。登校後に、児童・生徒に急に発熱等の風邪の症状が見られた場合、現在では、保護者が迎えに来るまで保健室等で休ませていると、私は考えております。ほかの児童・生徒に接触させない方法等をとらなければならないと考えますが、教育委員会として、どのような対策を現在取っているのか、それと、今後どのような対

策を考えているのかについてお伺いしたいと思います。

●議長 小林尚文君 教育長。

●教育長 小林広明君 ただいまのご質問、児童・生徒が朝の時点では何ともなかったが、登校後、発熱やせきによる新型コロナウイルス感染症の疑いがある症状を訴えたという場合についてですが、まさに今、千葉議員がご指摘のように、通常は、保健室等で待機させ、保護者を直ちに招聘し、下校させますけれども、保護者が迎えに来るまでの間、保健室内では、また他の別な子と接する可能性がありますので、これにつきましては、当然、別室を確保して、その部屋で迎えの車が来るまで待機すると、こういう配慮を行うよう小・中学校には指示しております。

現在、そのような例はないと聞いております。

以上です。

●議長 小林尚文君 再質問ありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 よろしく願いいたします。

次に、小・中学校の児童・生徒の学びの保障についてお伺いしたいと思います。

1点目ですけれども、休業中の家庭での学習は、教科書に基づく課題を出すなど、児童・生徒の学習に遅れが生じないように取組んでいると認識しております。休業期間中の家庭学習について、学校再開後に補充のための授業も行おうと考えております。教師がその学習状況や成果を確認した場合には、学校における学習評価に反映することができると文科省は示しております。

そこで、学校休業期間中に学校から児童・生徒へ出された課題について、評価に反映できるのかについてお伺いいたします。

●議長 小林尚文君 教育長。

●教育長 小林広明君 ただいまご質問の休業中における課題を評価に反映できるか否かというご質問でございますが、これにつきましては、家庭学習を評価すること自体は可能というか、しっかり評価をするということになります。その前提といたし

ましては、その家庭学習の内容が各教科等の指導計画に適切に位置づけられたものであり、評価することに値するという内容であることが求められるということになります。

以上です。

●議長 小林尚文君 再質問ありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 それで、本市においても、その部分について、評価に反映する予定でいるのかについて、本市の対応についてお伺いしたいと思います。

●議長 小林尚文君 教育長。

●教育長 小林広明君 ただいまの再質問、本市において、この状況に対応するのかというご質問ですが、その前に、この家庭学習を評価するという観点で、今お話ししておりますが、これについては、教育課程の実施における特別な措置という道教委からの通知がございまして、ちょっと少し話しますと、以下の要件を満たせば、学校長の判断により家庭学習の内容を再度授業で取扱わないことができますよという内容の一つになるのです。以下の条件というのはどういうことかという、1点目として、家庭学習の内容が各教科等の指導計画に適切に位置づけられていること。2点目として、家庭学習の評価を教師が適切に把握することが可能であること。3点目といたしまして、家庭学習により児童・生徒の十分な学習内容の定着が見られることという、この3点セットの中で家庭学習をしっかり行わせ評価もし、子どもたちに学習内容を定着させようというもののなのです。

そこで、こういうことを行うときはどういう場合かという、この6月1日に学校再開しましたので、このまま何事もなく、何事もあるかもしれないですが、通常どおり、学校が再開され、授業日が確保され、年度末までいきますと、授業の中でしっかりと教育活動、年間を通した指導を全て行い評価するということになりますが、今後もし、また再度、感染の状況によって、臨時休業があった。あるいは、毎年懸念される、例えばインフルエンザですとか、

冬場の暴風雪による臨時休校等で年間の授業時数の確保が難しいなどによって、これまで行われた家庭学習の中身が再度授業で行われない場合、行われなかったとしたら、今回、しっかり家庭学習をさせて評価している部分も教育活動として評価しましょうと。そういうことになると思います。

したがって、現在のところは、これまで、この4月、5月に行われた家庭学習を評価はしていますけれども、何というのでしょうか、正式な教育活動という、今、千葉議員がご質問にあるような観点では扱ってはいないということになります。

以上です。

●議長 小林尚文君 再質問ありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 学習内容の定着が不十分な児童・生徒もいると考えられますので、補充のための授業や補習の実施など、学習の遅れを補うための措置を講じていただくようお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

次に、2点目です。

2020年度から、学習指導要領が小学校でスタートし、標準授業時数も増えたと認識しております。6月から来年の3月までの期間において、冬休みを計画どおり取ると、授業日数は180日ではないかと、私は考えております。毎日、1日5時間授業を行うと、180日で900時間。4年生の標準授業時数が今新しくなって、1,015時間ですので、毎日授業をやっても、標準授業時数を確保するのは難しいのではないかと考えます。

各市町村教育委員会においては、標準授業時数を確保するために、1日の授業時間を1コマ増やしたり、長期休業中を短縮したり、土曜登校を実施したり、学校行事を削減するなどの取組を計画されております。

そこで、夕張市において、どのように標準授業時数を確保する計画でいるのかお伺いいたします。

●議長 小林尚文君 教育長。

●教育長 小林広明君 授業時数の確保に関して

のご質問でございますが、現時点、現在のところ、夏季休業、夏休みを短縮して、授業時数を確保する方向で検討、協議しております。また、1週間の中での1日何時間か行われるというようなものですが、5時間授業の日を6時間で行うと。そういう日も設定するという計画を行っているところであります。

以上です。

●議長 小林尚文君 再質問ありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 ただいま教育長のほうから、授業時数を確保するのに、長期休業中のうちの夏季休業だけを短縮して標準授業時数を確保するとの答弁でしたが、短縮する期間、何日ぐらいなのか、今現在、検討しているので、分かれば教えていただきたいのですけれども。

●議長 小林尚文君 教育長。

●教育長 小林広明君 期間、日数は何日かというご質問と思いますが、現在のところ、小学校では5日間、授業日を設定する。中学校では7日間、授業日を設定する方向で検討しております。

以上です。

●議長 小林尚文君 再質問ありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 小学校で5日間、中学校で7日間を短縮して標準授業時数を確保するという答弁でした。それで、夏季休業を短縮して授業を行うのですけれども、夏季休業期間中でも、マスクを着用して授業を行うと想定されますけれども、相当教室内は暑くなるのではないかと予想されますので、校内での冷風機の設置など、熱中症対策を講じていただくよう、教育委員会でのご検討をよろしくお願い申し上げます。

3点目です。

3月の教育行政執行方針に、ICTを活用した教育活動の推進に取組んで参りますと、教育長は述べております。この方針を受けまして、2020年度当初において、小学校にタブレット購入する予算を計上

しました。その後、国において、GIGAスクール構想の実現に係る国庫補助予算が成立したのを受けて、教育委員会は、小・中学校の児童・生徒全員にタブレットを配置する補正予算案を6月定例市議会に提出する予定に今なっております。

このように早期に導入を決めたことは、夕張の子どもたちに確かな学力を身につける教育の推進、分かる授業づくりを行っていくうえでも評価してよいのではないかと私は考えております。

そこで、今後の感染状況で、再び臨時休校や分散登校となることも考えられますが、今後、ICTを活用した家庭学習支援、オンライン授業等について、現在、教育委員会はどのように考えているのかお伺いいたします。

●議長 小林尚文君 教育長。

●教育長 小林広明君 ただいまの千葉議員のご質問、ICTを活用した家庭学習支援の考えについてでございますが、まさにこれからの時代、学校におけるICT活用は当たり前になっていくものというふうに考えております。そのことを踏まえ、本市の義務教育にあっても必要なことであり、他の自治体に遅れることなく、その実施に向けて着実に整備を進めて参る所存です。

今、千葉議員も申しましたとおり、オンライン学習等に必要となるネットワーク環境の整備や端末機器の整備に関しては、既に文部科学省が推奨しますGIGAスクール構想に従いまして、今次、定例市議会における財政再生計画の変更に所要の経費を計上したところであります。

なお、ICTを活用する教員の研修等も重要であります。現在話題となっておりますZoomというアプリを使用したオンライン通信システムの活用方法につきまして、先進的な取組を進めております夕張高校の協力を得て、先日、研修を行っていただくなど、取組を始めたところであります。

以上です。

●議長 小林尚文君 再質問ありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 ICT教育を進めていくには、環境が整っていない家庭もあるかと考えます。家庭の経済環境等に左右されないで、全ての子どもが多様な教育活動を受けることができるように、情報機器の整備や通信環境の整備の支援を教育委員会にお願いいたしまして、私の質問を終わります。

●議長 小林尚文君 以上で、千葉議員の質問を終わります。

次に、熊谷議員の質問を許します。

熊谷議員。

●熊谷桂子君（登壇） 日本共産党の熊谷桂子です。

今回は、公設塾夕張学舎キセキノについて、5点にわたって質問いたします。

まず1点目に、講師の欠員について伺います。

この夕張学舎キセキノは、夕張高校魅力化プロジェクトの一環として設置されることが決まり、地域おこし協力隊の制度を使い3人の講師を迎えて、2018年4月にオープンし、今年の4月には、3年目を迎えました。

しかし、途中から英語と国語を担当されていた1人の先生が退職され、講師の2人体制が数か月にわたって続いています。現在は、英語の専門の講師がいらっしゃらない状況で、残った講師の先生が2人で補完されていると伺っていますが、このことは塾生にとっての損失であるのはもちろんですが、3人で分担するはずの業務を2人で分担し、専門外の英語も担当せざるを得ないという状況。2人の講師の先生の負担も非常に大きいのではないかと推察するところ です。

このような状況について、どのようにお考えなのか、まず、市長の見解をお伺いします。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君（登壇） 熊谷議員の公設塾に係る講師の欠員に関するご質問について、お答えをいたします。

ただいまご質問をいただきました公設塾夕張学舎キセキノでございますが、議員ご案内のとおり、開

設時点において、3名の講師を採用し、運営をしてきたところでございますが、議員ご指摘のとおり、主に英語を担当されていた講師1名の方が自己都合により退職をされて以降、講師2名による体制で運営を行っているという状況でございます。

現在、市のホームページ、それから民間の求人サイトにおいて、継続的に講師の募集を行っており、これまで複数の問合せに対し、市職員が面談を実施したところでございますが、残念ながら採用には至っておりません。

いずれにいたしましても、生徒たちが引き続き、安心して学習を進めていけるよう、また、講師の方の負担軽減を図っていけるよう、講師の体制について、早期の整備に努めて参ります。

以上でございます。

●議長 小林尚文君 再質問ありませんか。

熊谷議員。

●熊谷桂子君 今、市長の答弁では、複数の問合せもあつて面談もしたが、まだ採用になっていないと、そういうご答弁でした。複数の方と面談をしても、なかなか決まらない。その原因については、どのように分析していらっしゃるでしょうか。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君 熊谷議員の再質問について、お答えをいたします。

この面談を実施して採用に至っていないという状況ですが、概要で申し上げますと、一つは、北海道外からの応募であるということで、その方のご家庭の、何というのでしょうか、勤務条件といいましょうか、そういったところとこちら側の要望事項についての折り合いがつかなかったというものもございます。

また、もう一例につきましては、例えば、いろいろなご経験をされていて、夕張学舎キセキノで、ぜひ、そのスキルを発揮したいという志高い方もいらっしゃるわけなのですが、こちらのほうが夕張学舎キセキノを運営していく上で大切にしていこうと思うもの、そこと若干合致をしないところがある。そ

ういったところがありまして、採用に至っていないというのが現状でございます。

●議長 小林尚文君 再質問ありませんか。

熊谷議員。

●熊谷桂子君 今、道外からの応募の方がというお話でした。やっぱり道外の方から見ると、北海道というのは非常に遠いということだったり、それから、夕張が財政破綻をしたという、そういう負のイメージというのはですか、そういったことも非常に私は影響しているのではないかなというふうに思うのです。

それから、もう一人の方は考え方の相違というところでしょうか。そういうことを考えますと、やっぱり、そういう夕張の負のイメージを払拭する何かそういった方策。それから、夕張市がこの公設塾に求めているものをしっかりとアピールする。そういったことが今不足しているのではないかなというふうに思います。今後、ぜひその辺を検討していただいて、改善に努めていただければと思います。

次に、2点目に、講師の継続について伺います。

現在の講師の先生たちは、地域おこし協力隊として採用されまして、今年度で地域おこし協力隊、最長3年という、その任期切れになるわけですが、今後の講師の継続について、どのようにお考えなのか伺います。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君 熊谷議員の公設塾に係る講師の継続に関するご質問にお答えをいたします。

公設塾に通う生徒のみなさんが安心して学習を進め、自らの目標を実現していくためには、安定的な公設塾の運営が必要不可欠であり、そのためには、公設塾における講師の体制について、また、学習指導の在り方等も含め、改めて検討を行うべきであると考えております。

そのため、今年度においては、公設塾における講師の体制や学習指導の在り方等について、様々な観点から検討を行うこととしておりまして、なるべく早期に方向性を出して参りたいと考えております。

以上でございます。

●議長 小林尚文君 再質問ありませんか。

熊谷議員。

●熊谷桂子君 今、市長のほうからは、様々なところを再検討しながら今後の方向をというお話でした。ぜひとも、生徒たちにとっては本当に必要なものだというふうに思いますので、ぜひ早急に再検討をお願いしたいと思います。先生たちも、自分たちがこれからさらに継続して、ここをやっているのか、それとも次の職場を考えなければならないのか、そういったことも非常に懸念されておりましたし、不安も持っていらっしゃるように伺っております。ぜひとも早急に方向を出していただければというふうに思います。

現状、地域おこし協力隊というのも、なかなか夕張市では採用するのにも苦勞している状況があります。そして、塾の講師というのは、教育に関わる専門的な知識やスキルが要求される、そういう特殊な職種なわけですから、それにふさわしい収入をしっかりと保障していくことも、当然だというふうに思います。今後の夕張高校魅力化プロジェクトをますます発展、充実させるためにも、安定した待遇を実現し、現在の講師の先生たちの経験も生かしていただけるような、そういう方法をぜひ検討していただければというふうに思います。

3点目に、新型コロナウイルス感染症に対する対応策について伺います。

緊急事態宣言が解除され、閉塾されていたキセキノも再開されて、手洗いやマスク、ソーシャルディスタンスなど、注意をされていることと思います。

しかし、このコロナウイルスについては、第2波、第3波、その後についても、インフルエンザウイルスのように毎年流行を繰り返す可能性もあると言われております。

そういったことも考えると、今回のように、また一定程度の閉塾になる期間も出てくるのが懸念されますが、この閉塾期間、今回はどのような対応策がとられていたのか、また、今後どのような対応を

される計画なのか伺います。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君 熊谷議員の公設塾に係る新型コロナウイルス感染症への対応策に関するご質問にお答えいたします。

公設塾では、新型コロナウイルス感染症の拡大によりまして、全道の高校が一斉休校となったことに伴い、感染症拡大防止の観点から、休校期間中であつた5月末までは、休塾の措置を講じていたところでございます。この間、公設塾では、休塾期間中の学習支援といたしまして、まず、公設塾に常設しているタブレット端末、こちらを生徒に貸出しを行い、Web学習サービスによる家庭学習支援の実施。それから、もう1点でございますが、SNSのアプリでございますけれども、これを利用した質疑応答対応や講師とのコミュニケーションの実施といった取組を行ってきたところでございます。

今回の取組につきましては、緊急的に措置を講じたものでございまして、新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、今後、生徒の感染予防のため、再び休塾とする可能性もあることから、引き続き、休塾中における学習支援策について検討して参ります。

以上でございます。

●議長 小林尚文君 再質問ありませんか。
熊谷議員。

●熊谷桂子君 今答弁にもありましたけれども、今後は、学校の閉鎖中、オンラインでつながり教育活動の継続を模索していくという、先ほどの千葉議員の質問のほうにも、教育長からもそういうお答えがありました。塾としての教育活動も、このコロナでの閉塾期間、一部実施されていたようですが、今後は、更に塾生全員が講師とオンラインでつながり、タブレット端末も、常設のものは台数が全員分はないというふうに伺っています。更に、その学校でのタブレットの充足というのでしょうか、そういうことも併せながら教育活動ができるようにしていくことが本当に必要になるだろうというふうに

思います。ぜひそういった面でも、充実をお願いしたいと思います。

4点目に、公設塾の魅力発信について伺います。

キセキノは、夕張高校魅力化プロジェクトの一環としてスタートした公設塾ですから、キセキノの魅力を市内外に発信することで、市内の保護者のみなさんにも、改めて公設塾の魅力を再確認していただき、信頼を深めていただくことが必要だと考えます。また、公設塾の魅力や、それが夕張高校の魅力化事業の一環であることなども併せて発信を充実させることによって、他市町村からも夕張市に移住し、夕張高校に入学してこの塾に入塾したいという塾生が集まる可能性もあると考えます。

塾生たちの生き生きとした学習の様子や取組を発信することで、様々な広がり期待できると考えますが、市長の見解を伺います。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君 熊谷議員の公設塾に係る魅力発信に関するご質問にお答えいたします。

これまで公設塾に係る情報の発信につきましては、市のホームページや公設塾のフェイスブック等において、理念や取組内容の説明、活動の報告を行っているところでございます。今後とも、引き続き、公設塾の情報発信について、発信方法の工夫や内容の充実努め、夕張高校の魅力化につなげて参りたいと考えております。

以上でございます。

●議長 小林尚文君 再質問ありませんか。
熊谷議員。

●熊谷桂子君 市長のほうから、今、市のホームページやフェイスブックという、そういうご指摘がありました。私も、市のホームページも何度も見返したのですが、一番最初にメニューのところから、子ども・教育というところにまず入って、そこに行かないと、公設塾の魅力というのは出てこないのですね。

ほかの町のホームページですと、トップページというのですか、市の一番最初のページのところに、

いろんな魅力的な、何というのですか、ページの入り口があって、そこをクリックするとそこに飛べると。トップページにそういう重要な政策の項目が羅列されていて、一覧性が非常にいい。そういうページ、私は、すごく分かりやすいし、発信力もあるなというふうに思うのです。

かつては、夕張市のホームページもそういう作りだったのですが、今回のホームページは、何か目的を持って検索していけば、もちろん、そこに行き当たるのですが、それをしないと、なかなかぱっとトップページ見ただけでは分からないという状況があるので、ぜひ今後、そういったことも改革というのでしょうか、いい方向にいけるようなことを考えていただければというふうに思います。

5 点目に、最後に公設塾の有用性について、市長のご所見を伺いたいと思います。

キセキノパンフレットを見ますと、塾の機能として、一人ひとりに合わせた学習カリキュラムを作成し、授業の予習、復習、定期テスト対策、受験対策、社会で活躍し、自らの道を切り開く力を養うため、外部講師などからの多様な学習を受けることができる。海外の学生、他の公設塾、地域住民など、多様な人たちと交流できるとあり、受講料は、1 か月 3,000 円というふうに書かれております。

これまで2年間の実績を踏まえまして、市長がこのキセキノに対して、どのような評価をされているのか伺います。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君 熊谷議員の公設塾の有用性に関するご質問にお答えいたします。

議員からお話もございました公設塾につきましては、開設から約2年経過したところでございまして、現在、3年目を迎えたというところでございます。

そこで、公設塾の目的であります学力の向上や人材の育成、こういったことにつきましては、一定程度、時間を要するものであるというふうに認識しております。その上で、公設塾の現状について申し上げれば、令和元年度においては、進学を希望してい

た公設塾の卒業生全員が大学等へ進学したと伺っております。また、公設塾には、夕張高校生のおよそ4分の1に当たる17名の生徒が現在通塾しており、今後、入塾を前向きに検討している高校生もいると伺っているところでございます。

こうしたことから、少なくとも公設塾に対する高校生や、その保護者等からの期待は、相当程度あるものと認識をしております。

以上でございます。

●議長 小林尚文君 再質問ありませんか。

熊谷議員。

●熊谷桂子君 今、2年間の実績について、市長の評価を伺ったわけですがけれども、今後の方向性については、どのようにお考えなのか伺います。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君 熊谷議員の再質問について、お答えいたします。

今後の公設塾の方向性ということでのご質問でございますが、この夕張学舎キセキノ、公設塾におきましては、設立目的であります市内における高校生の学力向上及び目標進路の実現、社会で活躍する人材の育成ということになってございまして、このことに向けて、これまで生徒一人一人に合わせた個別学習指導の実施、様々な分野で活躍する方をお招きした特別講演の実施などの取組を行ってきているところでございます。

今後とも、公設塾の目的、これを達成していくことができるように取組内容の充実を図って参るとともに、安定的な運営体制について検討を進めて参りたいと考えております。

以上でございます。

●議長 小林尚文君 再質問ありませんか。

熊谷議員。

●熊谷桂子君 外部講師などからも多様な学習を受けるというふうにあるのですけれども、これまで外部講師、どんな方たちをお呼びして授業を行っていたのか、今後どういった方たちをお呼びする予定なのか、その辺、構想がありましたらお願い

します。

●議長 小林尚文君 市長。

●市長 厚谷 司君 まず、外部講師でございませけれども、この夕張高校魅力化プロジェクトのコーディネーターの方にお越しいただいたり、それから、東大の学生さんがお越しいただいて、塾生と交流をしているというところもあるところでございます。

今後のそういった活動の具体的内容につきましては、この間、コロナ関係で高校が休業中ということもございましたので、休業が6月1日で明けましたから、その時期に合わせまして、今後の夕張高校魅力化の全体の取り組み方と併せて、この夕張学舎キセキノプログラム、そういったものについての関係のみなさま。関係のみなさまというのは、例えば学校、高校、それから、私ども行政もそうですけれども、地域、保護者のみなさま、そういった方からご意見をいただきながら取り進めていく、そういった内容についても決めていく運びになる予定でございます。

●議長 小林尚文君 再質問ありませんか。

熊谷議員。

●熊谷桂子君 今回の質問では、公設塾のキセキノについて、講師の補充、講師の継続、コロナ対策、魅力の発信、塾の有用性について、市長の見解を改めて伺ってきたわけですが、2018年の開塾までの歩みとして、財政破綻以降、人口流出が止まらず、子育て世代が充実した教育環境を求め、小・中学校時代から他市町村へ転出する動きが出始めるとともに、夕張高校に入学する生徒が減少し、高校存続の危機にも直面してきたという経緯があります。子育て世代、若者の市外流出による地域衰退加速化のおそれがありましたし、そして、その可能性は、現在もなくなったわけではないと思います。

これらを回避するために高校の魅力化にも取組、その一環として公設塾をオープンさせて、3年目を迎えるところだったわけですが、今年は2月からの新型コロナウイルスの発生により閉塾を余儀なくさ

れ、ようやく6月1日にスタートできたばかりです。学校も同じ期間休校になり、子どもたちにとっても、親たちにとっても、初めての経験であり、学校や塾の担っている重要な役割について、改めて考える機会になったことと思います。

家庭や学校以外で自分の進路について、一緒に考えてくれたり、また、学習面だけにとどまらず、社会に目を向けたり、外部講師から話を聞く機会があったりと、高校生にとって、公設塾キセキノは、社会性を広げ、人間的にも豊かな学びが得られる貴重な場になっていることと思います。

その貴重な塾の講師の先生の欠員が埋まらず、更に、現在まで頑張ってこられた講師お二人の来年度の処遇がどうなるのかも、現在未定な状況です。新型コロナウイルスの大きな影響もあり、担当職員のみなさんも、本当に大変だったことは、重々承知しておりますが、これからは、ウィズコロナ、インフルエンザと同じように、コロナウイルスや、更にまた別のウイルスが流行することも視野に入れながらの生活をしなければなりません。そんな中でも、子どもたちの貴重な学びの場をしっかりと保障するために、講師の補充、講師の継続、コロナ対策、魅力の発信、このことを改めて申し上げまして質問を終わります。

●議長 小林尚文君 以上で、熊谷議員の質問を終わります。

以上で通告されました質問は、全部終了いたしましたので、日程第1、一般質問はこれをもって終結いたします。

●議長 小林尚文君 以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

本日は、これをもって散会いたします。

午前11時34分 散会

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する。

夕張市議会 議長 小林 尚 文

夕張市議会 議員 本 田 靖 人

夕張市議会 議員 千 葉 勝